



撮影・菊政哲也

## 第6回江崎玲於奈賞を受賞した京都大工学研究科教授

## 顔

野田 進のだ ますむさん 49

美しい光沢を放つでこしらえた。

つモルフオチヨウの羽の色は、色素ではなく、微細な構造から生まれる。それに似た性質を持つ「フォトリック結晶」を人工的に作り、光を曲げたり蓄えたり、と自在に操る技術を開発し、ナノテクノロジーの世界的研究者に贈られる栄誉に輝いた。

三菱電機に勤めていた20歳代のころから温めていたアイデアが開いたのは1999年。ダイヤモンドの構造を参考に、ミクロの半導体の棒をジャングルのよう組み上げ、ほぼすべての光を反射する結晶を、独自の製造装置

でこしらえた。「世の中になくもないものを生み出すことに、わくわくしている」。超高速の光素子のほか、光通信、照明などへの応用も視野にある。

小学校の文集に「絶対死なない薬を発明する」と書いた。分野は違うが初志通りに技術開発の道へ。メーカーから京大へ転身したのも「ずっと研究ができるから」。

自慢のオーディオでクラシック音楽を聴くのが楽しみだが、「研究にも、学生の指導にも忙しくて」。光のように操れない自分の時間が悩みだ。(京都総局 富浪俊一)